

総合計画市民検討協議会 第2回報告書（行財政運営 部会）

記録者	鈴木 梓平	場所	市役所北庁舎第1～3会議室	
開催日時	平成24年2月4日（土） 午前9時30分 ～ 正午			
出席者 （10名）	伊東 信江	小川 暁男	清水 雅英	内藤 治
	松木 紀美子			
	鈴木 梓平	武澤 秀幸	中村 太一	堀 宗生
	三浦 直広			
傍聴者	0名（ ）			

1. 基本構想の見直しについて

見直しの視点	<ul style="list-style-type: none"> ●「第1回市民検討協議会のまとめ資料」を確認した上での追加意見 <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりの主な課題に関する意見について」から議論に入り、時間がなかったため、議論に入ることができなかった。 ●まちづくりの主な課題に関する意見 <ul style="list-style-type: none"> 【テーマ1：コミュニティにおける参加と支え合いについて】総合計画 291 頁 <ul style="list-style-type: none"> ・府中市が何をやるかわからないので、市民が主体となって動くことができない。 ・コミュニティ活動を形成するための自治会とコミュニティ協議会が、一部の人がしか参加しておらず、また、メンバーが変更されない閉鎖的な状況にある。 ・外国人とのコミュニケーションに不安がある。特に、国際交流サロンに通う外国人は、固定化されている一部の人が多いので、もっと多くの外国人を参加させるべきだ。 ・次に掲げる問題があるので、市がコーディネーター（調整者）となるべきだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の活動が個々に活動しているので、お祭り等のイベントで調整されない。 ・学校やPTAと自治会（コミ協）とのつながりが弱い。府中市版スクールコミュニティを作るべき。 ・自治会などに参加している人や文化センターに来る客が固定化されている。（家にいる人を発掘してほしい。） </div> ・縦断的な仕組みから横断的な仕組みを作れる組織や部署やコーディネーターとしての組織や部署が市として必要ではないか。 【テーマ2：地方分権への対応】総合計画 292 頁 <ul style="list-style-type: none"> ・「国による税財源配分の見直しや、様々な行政課題に対応するための新しい行政体制の構築が必要である」という部分が他人事に見える。 ・「地方自治体は自己の責任において自立性を高め」という部分があるので、市として横の連携を充実させる組織を構築してほしい。 ・地方分権一括法が2000年に施行されているが、あまり地方分権化が進んでいない気がする。 ・府中市は、他市の政策を見てから動くことが多いので、今後はリーダーシップを発揮し、他市よりも先陣を切って政策を決定してほしい。そのために、
--------	---

国や都に積極的に働きかけ、予算を取ってほしい。

- ・ 地方分権から地域主権を目指していく必要がある。
- ・ 市として、地方分権化に対応できるよう都や国に働きかける組織を作る必要があるのではないか。

● 土地利用に関する意見

- ・ 「まちづくりの主な課題に関する意見について」から議論に入り、時間がなかったため、議論に入ることができなかった。